

第十四回教化学研究集会研究発表要旨

現代の師弟関係を考える

福山 賢修

(滋賀県龍王寺住職)

本日は、近畿教区教化学研究発表会にご参考にご苦労様です。

今日は、私の子弟が宗門大学の立正大学に合格し、池上本門寺へ入寮する日でございます。この様な日に「現代の師弟関係を考える」という題でお話させていただくとは、不思議なご縁だと思っております。

立正大学で学び、池上本門寺で隨身生活・修行させていただることは、親にとって大変嬉しいことであります。

○出家の動機

私が在家から出家致しましたのは、今から三十数年前のことと、父が不治の病にかかり、私の師匠である福山

日種上人に出会い、お題目・法華經にご縁を結ぶことが出来たからです。

小学校四年生の時、父が不治の病にかかり、あちらの医大こちらの名医、それにあちらの拝み屋こちらの祈禱師と訪ね歩きまわったのです。それでも治らず困っていました時、師匠である福山日種上人に出会い、師匠は尼僧さんで、靈視靈感があり、その靈視靈感のご指導により改宗して、家族中がお題目・法華經信仰に入信することが出来たのです。家族中が父親の病氣快復を願い、一心にお題目信仰に邁進致しました。

長男は家の後取りだから大学まで出て、後の姉弟は父の病氣のため、家が苦しいので中学の義務教育だけ受け、働くことになっていました。お題目信仰のお蔭で、中学一年生の時に父の病が治り、社会復帰することが出来たのです。父の病氣で地獄みたいな生活をしておりましたが、病氣が治ることによって楽しい明るい家庭生活

にもどった訳けです。

父親は、お題目信仰のお蔭で病気が治つたために、次男である私を師匠の子供として、法華經に捧げることにしたのです。私も以前より信仰を続いている中、師匠の日常生活における布教活動を見たり聞いたりしていく、師匠みたいな人間になりたいと常々思つておりましたので、二つ返事で師匠の子供になることになり、その時より師弟関係を結ぶことになった訳です。

○師匠の布教活動

師匠は、五十二歳で出家得度し、五十六歳で信行道場に入場され、日常の布教活動は、境内地は広くありませんが、檀家三十軒を住わせ、共に朝六時より三十分間唱題行、午前九時より唱題行・法話、午前中いっぱい靈視

靈感による檀信徒教化・指導をされていました。そんな

中、昭和五十三年五月号の日蓮宗新聞に「三十万人の指導者 福山日種上人」と題して、布教教化活動が著わされたことがあります。尼僧として福岡県飯塚市に二カ寺、昭和三十四年に佐賀県唐津市に一カ寺、三十五年に広島県三原市に一カ寺、滋賀県に一カ寺（現在私の寺）、四

十八年に博多に一カ寺、計六カ寺を建立されたのです。毎月八・二十三日は、国鉄の飯塚駅より二百名前後の檀信徒で、寺まで唱題行脚があり、寺では信行会並びに例祭法要で、本堂一杯に檀信徒が集まつての法要がありました。その他、街頭布教、数班に別れての寒修行があつたりで、その布教活動に凄まじいものがありました。

私は子供心に師匠に対しても、檀信徒に対する指導教化「喜怒哀樂」を表面に出し、更に信行会・布教活動等を通して、宗祖に対する報恩の姿勢に感銘を受けて、師匠の様になりたいと思った訳です。

では、現代における師弟関係はどの様なものが見聞してみると、

○修行機関

本宗の公的な修行機関には、各教区で開かれている僧風林（沙弥校）で、子弟最初の養成機関がある。最初の僧風教育で三宝給仕・行法・基礎修行があり、この僧風林に入れた方が二〇パーセント、「入れない」「不明」が三〇パーセントが現状である。その他、信行道場・布教研修所・加行所・布教院・声明師養成講習会等がありま

す。信行道場・加行所に入るには、読經テストがあり、いかにお經の読めない教師が増えているか物語っている。

○子弟に読經を教えるか

子弟に読經を教えるかどうかに対しても、「教える」が四三パーセント、四割強であるが、その反面「教えない」「不明」が五七パーセント六割弱で、私達以前の時代に出家得度された方々は、師匠より一文一句で読經の指導を受け、お經の達者な教師が多かつた様に見受けられる。現代では、師匠たる父親が法務多忙と回向・年中行事に日々追われている現状のため、読經を教えること、宗祖・釈尊伝・法華經を子弟に解り易く説き教える時間ががないための現象であろうと考えられる。

また、教師として一番学びたいことは、「法華經・日蓮聖人の教え」で、四割強いるのです。我々自身が勉強することであると思います。子弟・檀信徒教化イコール教師自身の布教教化の成果だと考えられます。

○子弟の進学について

子弟をどこへ進学させるかに対しても、「本人の希望」「子供の意志を尊重する」が大変多くて、次に「立正大

学仏教学部」「他大学卒業後立正大学・身延山短大」、次に「一般大学」との順番である。

以前は、師匠である親の言う通り立正大学仏教学部、または身延山短大・立正大学編入と進学したものですが、現在では本人の希望・子供の意志を尊重すると變ってきたのである。

または、車やバイクを買ってやるからという条件つき等で立正大学仏教学部・身延山短大へと宗門の教育機関へ進学させる現状である。また高校の教師が進学指導の時、君の頭では立正大学・身延山短大ではもつたらないからと言つて、レベルの高い大学へ進学を希望させるため、優秀な子弟が一般大学へ行ってしまうのである。

この様に考えてみると、現代において師匠である父親が法務多忙のため、子弟の教育・指導が思い通りに充分出来ず、師僧や両親の布教活動・寺院生活からの影響が受け易く、子弟や檀信徒に対しても、日常の生活態度の重要性が大切であると考えられます。